

イメージング研究分野

イメージング研究分野では4つの研究会が活動している。各研究会の活動をまとめると以下のようになる。

X線マイクロ・トモグラフィ研究会では光学技術、画像解析、応用技術などの情報交流が進み、学術面でも成果を挙げることができた。施設の改善等についても意見を取りまとめ、色々なチャンネルで働きかけた。最新の情報機器の導入とソフトウェア高速化はその最たるものと言える。このほか、ホームページなどによる情報発信、新規ユーザーの開拓・実験開始についても積極的に展開した。これら一連の活動は、研究会からのプロジェクト予算申請、国際シンポジウム開催となって結実した。

マイクロ・ナノイメージングと生体機能研究会では、ワークショップの開催などを通して新規ユーザーの獲得と研究組織づくりの努力がなされ、ある程度成果が上がっている。また、研究会で推進すべき、SPring-8の光源特性を生かした重要課題の抽出についても議論が進んでいるが、具体的な施設の改善や高度化の提案にはまだ至っていない。CTなど共通の手法を利用するマイクロナノトモグラフィ研究会との連携も今後視野に入れた活動を期待したい。

X線トポグラフィ研究会ではX線トポグラフィと関連する技法に関する最新情報の共有と意見交換をした。X線トポグラフィの3次元化の有用性が改めて認識され、3次元観察がBL28B2で利用できるようになった。また、産業利用に関しては、BL19B2でもトポグラフィが実施できるように整備が進んでいるところである。新規ユーザーの開拓を行い、新規グループの実験、新規会員の増加につながった。

顕微ナノ材料科学研究会では研究会と通じて情報交流を行うと同時に、SPring-8における実験体制の問題点および将来のビームライン設置に関して議論を行った。その結果BL17SUのSPELEEMの担当者が一名から二名に増員された。利用者に

とって大変大きな貢献が出来ることになった。また新設ビームラインについては所属委員が代表になり新東大ビームラインが立ち上がることになった。この成果は大変大きくこの具体的な世話に関しても本研究会のメンバーが関与していくことになった。